

# NEWS

## 2002.10 ~ 2003.2

### 施設の老朽・ 狭隘化改善プロジェクト進行中 東京芸術大学総合芸術棟増築・改修工事 並びに音楽学部校舎増築・改修工事

現在、本学上野キャンパスにおいて、二つの大きな施設整備のプロジェクトが進行している。一つは美術学部キャンパスの総合芸術棟増築・改修整備プロジェクト、さらにもう一つは音楽学部キャンパスの校舎増築・改修プロジェクトである。どちらも文部科学省が策定した国立大学等施設緊急整備五カ年計画の一環として、本学の長年の夢であった、施設の老朽・狭隘化の改善を目指す整備である。

キャンパス計画のコンセプトは、美術領域では「ファクトリー・ミュージアム」の構



練習ホール  
内観パース



音楽学部 校舎完成パース

築、音楽領域では「アクティブ・アンサンブル・ステージ」の構築を掲げている。美術・音楽それぞれのさまざまな芸術諸活動を相互に有機的に融合する場として「フレキシブルスペース」というさまざまな新しい概念の空間を形成し、これらを中心とした芸術諸活動スペースの融合を目指すものがある。

「七つのリファイン」の基本方針のもと、キャンパス全体のリファインを見据えながら、平成十六年三月の完成を目指し、着々と工事が進められている。

## 交流

### 芸術国際交流協定の締結

十二月二十日、美術学部の堀口教授、島田助教授等がトルコを訪れ、トルコ国立アナドル大学との間で大学間交流協定書を取り交わし、併せて同大と美術学部の間で学生交流に関する協定書も締結された。

アナドル大学は、美術学部、音楽・演劇学校などを含む総合大学。当面は、毎年度一名程度の学生交流を実施する予定。

今回の調印により、本学の交流協定締結校（大学姉妹校）は、九力国一六大学となった。



## 受章・受賞

### 秋の叙勲 稲次敏郎名誉教授が受章

平成十四年度秋の叙勲において、本

学関係者では、稲次敏郎名誉教授（デザイン）が勲三等瑞宝章を受章された。

### 日中交流貢献賞受賞

九月二十七日、日中国交正常化三十周年を記念し、両国の文化交流に貢献した日本人を中国政府が表彰する「文化交流貢献賞」を平山学長が受賞した。

## 運営

### 映像・舞台芸術 実験授業開講

「映像・舞台芸術に関する授業科目の開発プロジェクト」の一環として平成十四年十月から映像・舞台芸術に関する実験授業を内外の受講者を対象に開設した。大学院レベルの内容で、三年計画である。この実験授業を、映像・舞台芸術の研究者、また高度な職業人の育成につながる第一歩と位置づけている。

第一期は白井佳夫「日本の個展映画史」、山口猛「映画の現在」、碓井広義「現代テレビ論」。今井豊茂「歌舞伎」、八木雅子「西洋古典演劇研究」の各講師があたる。受講生は学内外の応募者のなかから書類・面接選考を経て選抜された一〇八名。平成十五年九月までなお、この開発研究プロジェクトに必要な経費は、中村雅哉奨学金の一部が充てられている。

### 世界文化賞受賞者

ジュリアーノ・ヴァンジ氏から記念講演会でアドバイス

十月二十五日、第十四回高松宮殿下

## 「七つのリファイン」

構造のリファイン  
既存躯体を活かし成長する耐震改修

かたちのリファイン  
デザインコードに則った外観の調和

ゾーニングのリファイン  
芸術創作プロセスに合わせたゾーニング

空間のリファイン  
オープンアトリエ、オープンスタジオ等

設備のリファイン  
長寿命化を視野に入れた設備のユニット化

広場のリファイン  
アメニティーに配慮した交流スペースの創出

キャンパスのリファイン  
施設緊急五カ年計画の移行を踏まえた計画

## 「フレキシブルスペース」

共用スペースの確保と活用  
オープンアトリエ、オープnstudio等  
領域の枠を越えた運用

パブリックスペースの充実  
廊下のギャラリー化、アメニティー空間の充実、通路等スペースの多目的利用

多目的スペースの確保  
自由な発想と創造力あふれる運用による創作空間の創出

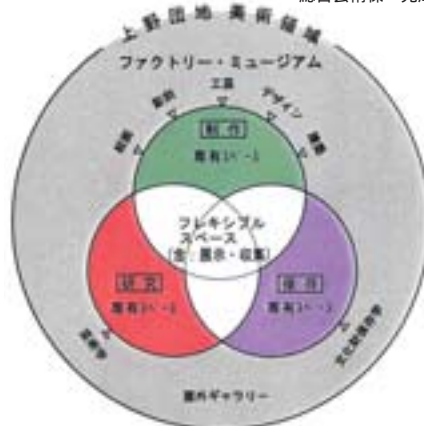
屋外スペースの有効活用  
オープンデッキ、屋外ギャラリー、屋外ステージなどを半屋外に創出し、内外部の一体的有効活用を図る。



総合芸術棟 完成パース



アクティブ・アンサンブル・ステージ概念図



ファクトリー・ミュージアム



アトリウムパース

**光を楽しむ展  
(科学博物館・共催)**

国立科学博物館において開催(十月三十一日〜十二月八日)された特別企画展「光を楽しむ サイエンス・アート・ファッション」に本学も共催した。光の特性を科学的にさまざまな角度から明らかにするとともに、文化面



記念世界文化賞(彫刻部門)を受賞したイタリアの彫刻家、ジュリアーノ・ヴァンジン氏を招き、記念講演会を開催した。ヴァンジン氏は、自身の美術学校を卒業してから今日までの研鑽を振り返りながら、作家を目指すものにとって必要なことについてアドバイスし、学生たちにエールを贈った。会場となった美術学部第一講義室は、超満員となり、二〇〇名を超える学生たちで溢れかえっていた。

講演後には、美術学部彫刻科のアトリエを視察。学生一人一人に対して制作中の作品を熱心に見ながら具体的なアドバイスをを行った。



においても光が「芸術」や「ファッション」といかに調和し大きな影響を与えているかについて紹介していた。

開会式では音楽の大学院生による演奏会も行われた。

**大学美術館の来館者、開館三周年で一〇〇万人達成**

開館三周年を迎えた大学美術館は、十一月二十七日、平成十一年十月の開館以来延べ入館者が一〇〇万人に達した。

記念すべき一〇〇万人目の幸運をつかんしたのは、期間中一五万人を超える入場者があった「ウイーン美術史美術館名品展」を仙台市から観覧にみえた篠原永市さんで、大学美術館には数回来館されているとのこと。竹内美術館長から歓迎挨拶のあと記念品が贈られた。

また、今後の幸先を祈念して、一〇〇万人目前後の中野区の吉田淳一さん、松戸市の宮内くらさんにも記念品が贈られた。